

令和4年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく、意欲を持って何事にも真摯に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自分の能力・適性等を的確に把握し、高い目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。今年度の具体的な重点目標としては、「家庭学習の充実と教師の授業力向上」「基本的生活習慣の改善」「健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上」「生徒一人ひとりの適性に応じた学習・進路指導」「学校行事への主体的な取り組みと生徒規約の見直し」「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、10分野15項目（今年度から重点課題「科学的思考力の習得」に普通科の評価が1項目増）の目標について、Aが5項目、Bが8項目、Cが2項目であった。評価Bとなった項目が昨年度より大幅に増加した。「家庭学習の充実」「健康的な環境づくり」の2項目については評価Cとなった。家庭学習については、今年度から55分授業×6時限となり、放課後の時間が確保されたこと、および自学講座の中止等もあり、家庭学習の質的向上や学習総量の増加が期待された。しかし、生徒の達成度は前年度より微増程度であった。部活動の活動時間が長くなつたことや休日の活用についての考え方方が曖昧な状態であったことが要因としてあげられる。生徒には面接等で学習時間の確保や休日の活用について指導助言する必要がある。次にスマートフォンについては、コロナ禍の3年間でその利用法について変化してきている。保護者の意見の中には学習に有益な使用例についての言及があり、家庭と連携しながらよりよい指導に結び付けていきたい。評価Aのついた「授業力の向上」「学校行事への主体的な取組み」「探究学習における課題発見力・論理的思考力の育成」「意欲的学習態度の育成」については、継続的取り組みが成果をあげている。生徒の意欲を大切にし、引き続き改善を図っていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度から変更した55分授業については、教員および生徒の半数以上が賛成とした。しかし、生徒の学習時間があまり増えず、部活動時間だけが長くなつた等の意見もある。また、今年度は自学講座を中止したが、その影響や実施の是非については議論されていない。次年度中に方向性を決定し、実施となれば、詳細なところまで決めておくことが求められる。真に必要な部分に注力できるよう、議論を重ね、教職員間の連携、学校と保護者の連携を深めなければならない。

8 学校アクションプラン

令和4年度 富山高等学校アクションプラン ー1ー

重点項目	学習活動		
重点課題	生徒の家庭学習の充実と教師の授業力向上		
現 状	<p>(1) 本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導している。学習の習慣化が定着している生徒が一定数いる一方、学習時間の確保に困難を感じる生徒や、時間の確保はできても学習効率に工夫が必要で、成績向上を実感できずにいる生徒もいる。</p> <p>(2) 生徒の主体性を引き出すため、本校の教師は「学び合い」や「ICTの活用」などの工夫を継続的に行ってきました。昨年度からは「振り返り」の機会も意識されるようになり、講義形式のみの授業からは脱却しつつあるが、「思考・判断・表現」に関する目標を達成するためには、55分授業の活用法を研究し、各自の取り組みを全体で共有することが望まれる。</p>		
達成目標	<p>【家庭学習の充実】</p> <p>①1・2年生の学習時間について 「自ら計画した家庭学習時間が達成できた」生徒の割合が70%以上となること。</p> <p>②効率的な学習について 「計画的で効率的な学習」ができるようになり、「学習の総量が増えた」生徒の割合が80%以上となること。</p> <p>※①は1学期、2学期に、②は1月に実施する学習生活実態調査の結果から考察する。</p>	<p>【授業力向上】</p> <p>①生徒による授業評価について 「学び合い」や「振り返り」が行われ「主体的に参加した」と評価された授業の割合が、全体の80%以上となること。</p> <p>②教員間の互見授業と情報共有 互見授業の実施率が100%となること。確実な学力を身につけさせる方策や、55分授業の活用に関し情報共有できる機会を設定すること。</p> <p>※①は1学期末、2学期末に実施する「授業アンケート」から考察する。②は教員へのアンケートを実施し、全員にその結果と考察を配布する。</p>	
方 策	<p>1. 面接指導の充実… 担任および教科担当者による面接等を通し、学習時間の確保に困難を感じている生徒や学習効率に工夫が必要な生徒に対し、丁寧で具体的な指導を行なう。</p> <p>2. 「学び合い」「振り返り」「ICTの活用」の充実… 各教科・科目において、授業一つ一つの達成目標を計画的に設定する。また、ICT利用の長所・短所を把握し効果的な利用法について研究を進める。</p> <p>3. 進路指導部との連携… 学習係と担任・教科担当者との連携において、生徒が家庭学習に主体的に取り組める適正な課題の質および量を設定する。また、生徒個々の進路希望に対して、学習計画や学習方法が効率的かつ効果的であるかを判断し、適切に指導する。</p>		
達成度	<p>①自ら計画した家庭学習時間が達成できた生徒の割合 [9月] 1年 53% 2年 38% ※今年度新規 (1学期は4月実施と早期だったため設定せず)</p> <p>②「1学期より計画的で効率的になった生徒」 [1月] 1年 81%(75%) 2年 68%(74%)</p> <p>「1日あたりの学習総量が増えた生徒」 [1月] 1年 74%(63%) 2年 53%(59%) ※()内は昨年の数値</p>	<p>①「学び合い」や「振り返り」が行われた [7月] 1年 79%(84%) [12月] 1年 86%(90%) 2年 88%(76%) 2年 92%(81%) 3年 70%(60%) 3年 77%(68%)</p> <p>②教員間の互見授業と情報共有 ・互見授業実施率91.9%(実施記録者数57/62、延べ互見数115) ・実施したアンケートの「まとめ資料」を1月26日に配付共有した。</p> <p>※()内は昨年の数値、全校生徒対象</p>	
具体的な取組状況	<p>「方策」に対応して</p> <p>1面接指導の充実… 担任による面接を年間5回以上実施し、学習状況の把握、学習習慣や生活習慣の見直し・改善に向けたアドバイス等を行なった。また、その内容は学年会などで必要に応じて共有が図られ、学年や教科の担当者全体での指導に活かされている。面接には担任以外の先生もあたっており、生徒にも好評であった。学年の縦のつながりや、教科間の情報交換も活性化することが望まれる。</p> <p>2「学び合い」「振り返り」「ICTの活用」の充実… 教員個人の、もしくは教科全体のツールとして、ICT機器を用いた授業が定着している。その効用として、グラフデザインが容易なことから授業進度の確保ができる、時間を使効率的に使えるので適時教材を提示することができることがあり、結果、生徒の思考する時間の確保、集中を途切れさせることなく進行できることに繋がっている。一方、ICTの使用を絶対視しないという姿勢も大切であらう。教員は、授業の目標達成に資する最適法を、その都度選択することを心掛け、実践している。</p> <p>3.進路指導部との連携… 課題の適正化は、学習係が、担任・教科担当者との連携のもと責任をもって行なっている。課題量が適正か否かは、生徒が得るべき実力の度合から判断している。一方、課題にしっかり取り組みたいという生徒の気持ちは強いが、完遂できないことで自己肯定感が低下している者もいる。課題の意義については生徒に丁寧に説明し、継続して課題に取り組めるような環境作りを心掛けている。</p>		
評 価	<p>①C ②B</p>	<p>①A ②A</p>	
	<p>①「自ら計画した家庭学習時間が達成できた」生徒の割合 結果に鑑み、1月実施のアンケートでは、「70%以上という目標に、どんな意味を持たせているのか」、「現状改善ための指標となるのか」との指摘を受けた。さらに、「生徒が設定した学習計画が教員の期待に合致しているのか」との懐疑もあり、達成目標の設定に一考が必要である。</p> <p>②「計画的で効率的～」「学習総量が増えた」生徒の割合 これは生徒の絶対評価であるが、昨年度との比較においても、自己を肯定的に評価する生徒の割合は増えた。ただし、「学習時間は達成するものではない」「(生徒の)学習のストーリーを(教員も)共有すべき」という提言もあり、単に数字を追うだけではなく、授業・面接等でのきめ細やかな指導の実践が不可欠である。</p>		
学校関係者の意見	<p>・オンラインではなく、対面授業の良さを活かしてもらいたい。 ・学習総量という定義があいまいで、教員および生徒間でも受け取り方が違うと思う。</p> <p>・「学び合い」や「ICT機器の活用」の研究を通して、生徒の主体的学習態度を引き出し深い学びに繋がるような授業改善を行ってもらいたい。 ・不登校傾向の生徒に対して、オンライン授業を配信して欲しい。(クラスの雰囲気や授業の進度を伝えるといった意味で十分とのこと)</p>		
次年度へ向けての課題	<p>次年度は、時間の長さよりも、生徒が「できるようになる」実感を得られる学習計画の立案・実践について、新規に達成目標を設定し、評価したい。それらを通して、学習と自己との対話、教員と生徒との対話、授業の在り方・課題の在り方についての対話を増やす契機としたい。</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなつた)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の改善	
現 状	<p>本校では『生活あっての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。また、スマートフォンの利用時間は、最近数年は増加の傾向にある。</p> <p>また、4月から18才を成人年齢とする法律が施行され、法的には親の承諾なく売買等の契約や、婚姻等の届が出来るようになったが、そうした18才をターゲットにした犯罪の危険性もしてきされている。</p> <p>素直で真面目であるが、現実に柔軟に対応できず悩みを抱え、高校生活に適応しづらくなっている生徒がいる。学習への精神的圧迫からか1年2学期から2年1学期にかけて不登校気味になる生徒が見受けられる。成人としての自覚や責任をまだ意識していない3年生が多い。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止は、引き続きの課題である。感染拡大防止対策の一環として換気が推奨されており、日々実践しているところではあるが、換気の状況を正確にとらえることは難しく、室内的二酸化炭素濃度を測定し換気の状態を認識し、充分に換気することが出来るようになることが重要である。また、食事の時の感染拡大が知られており、黙食の徹底、すみやかにマスクを着用することが重要である。</p>
達成目標	<p>①スマートフォンの、学習活動・生徒間連絡利用以外の使用時間短縮。 ②個人情報のSNSへの安易な書き込みの防止。 ③主張的に18才を成人年齢とする法律の要点を理解する態度の涵養。</p> <p>①学習活動や生徒間の連絡以外の目的でスマートフォンを使用している時間が1日2時間以内である生徒割合が70%以上。 ②ネットバトロール等外部から指摘を受けるような他人の個人情報掲載、著作権違反、他への中傷記載などなくす。 ③18才を成人年齢とする法律を学ぼう(理解しよう)とした3年生の割合が80%以上。</p>	<p>環境整備委員、保健委員が中心となり、室内的二酸化炭素濃度を測定し、出来れば1000ppm、多くても1500ppmの濃度を下回るように、換気を徹底させる。黙食の徹底、速やかにマスクを着用することが出来るようになる。</p>
方 策	<p>1. スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、使用時間を控えさせる。 2. 個人情報の安易な開示・書き込みなどについての危険性について生徒の意識向上を図る。 3. 法律によって改められる権利と義務を、さまざまな機会を通じて啓蒙する。</p>	<p>二酸化炭素濃度測定器を教室に配置し、環境整備委員、保健委員を中心に教室内の二酸化炭素濃度を記録する。換気することで教室内の二酸化炭素濃度が低下することを実感し、換気の習慣を確立する。 二酸化炭素濃度と眠気の関係や作業効率への影響を知り、感染拡大防止とともに、より良い学習環境について学ぶ。黙食・速やかなマスク着用を心がけ感染拡大防止に努める。引き続き手指消毒・清掃時の消毒に努める。</p>
達成度	<p>①学習活動以外でのスマートフォン使用時間が1日2時間以内である生徒の割合 1年…83% 2年…85% 計…84%</p> <p>②ネットバトロール等外部機関からの指摘 0件 (SNS書き込みでの人間関係のトラブル 1件 校内把握)</p> <p>③18歳成人の法律を学ぼうとする3年生の割合 81%</p>	<p>二酸化炭素測定装置の故障等もあり全クラスでの測定記録が不可能となる。換気にについての方針も変化があり、常時換気から休み時間の間に換気する方向性が示されたことから、その方向で換気を行う習慣の確立とした。コロナ感染者、濃厚接触者等で出席停止となる生徒もいたが、学校での感染が疑われる事例はほぼ無く、家庭内感染が主であった。詳細は学校保健委員会で報告した。</p>
具体的な取組状況	<p>新入生保護者に対しては、入学式後の保護者説明会で注意を呼びかけた。新入生に対しては警察の方を講師に招き、SNS安全教室を開催した。</p> <p>また、全校集会や学年集会等で注意を呼びかけ、意識の高揚を促した。</p>	<p>学校保健委員会で、本校の感染者数の推移、マスク着用に関する意識調査とともに報告し、指導助言をうける。</p>
評 価	<p>① B ②B ③B</p> <p>①スマホの1日の使用時間は、2時間を超える生徒はかなりいると思われるが、昨年の学校評議委員会の指摘を参考に、今回学習利用を省いたら目標値を達成できた。学習利用の中身については不明な点もある。 ②外部からの指摘はなかったが、ライングループ内の書き込みで友人関係に亀裂が入ったケースもあった。個人情報書き込みの危険性は生徒に浸透しつつあると思われる。 ③18歳で成人となり、自分がその立場に該当するので、3年生の生徒の関心は高い。特に「選挙権」「売買契約」への関心が高い。</p>	<p>C</p> <p>学校内でのクラスターは確認されていないが、感染者や濃厚接触者は、日常的に見られるようになっているので、達成度は現状維持とした。</p>
学校関係者の意見	<p>保護者より「スマホは学習に不要」と今まで考えてきたが、「学習にスマホは不可欠になっている」「オンライン授業等スマホの使用機会は増加している」「子供同士は考えながら使用している」等、スマホの利用について、理解していく必要があるのではないかといった意見があった。スマホの使い方もコロナ禍で変化し、どのような利用方法が良いのかを生徒同士で考える機会があればよい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>スマートフォンの使用頻度が年々増加している現状の中で、適切な使用方法を生徒一人一人に考えさせたい。</p> <p>道路交通法の改正によって、自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務として求められている。自転車事故が少なくならない現状を踏まえ、校内でのルール作りが必要なのか、検討したい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導	
(1)本校では、生徒の進路意識の向上と学習意欲の喚起を目的に、折に触れて様々な進路行事を開催している。さらに外部講師を招き、1・2・3学年とも進路講演会を行っている。これらによってモチベーションを高める生徒がいる一方で、進路意識が高まらない生徒も散見される。 (2)自らの進路について早くから考え、目的意識を持って学校生活を送っている生徒と将来についてなかなか考えを深めることができない生徒がいる。		
現 状	①進路意識の醸成 ①各種進路行事 ・進路行事を通して、自らの進路を深く考えるようになった生徒の割合80%以上 ②外部講師を招いての進路講演会 ・目的意識を持って学習に取り組むようになった生徒の割合80%以上。	②「進路目標(志望校)の設定」 ・目標とすべき志望校が、第2学年が終了するまでには決定している。
達成目標	1 学年集会や面談等を利用して、進路を考える機会とする。 2 高い進路目標を持つ集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。 4 学習支援講座や講演会、「進路のしおり」等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。 5 社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に「学びに向かう力」を育むことができるよう支援する。	
方 策	①について:1学年は社会の現場で活躍する本校の先輩方を招いて開催したキャリアガイダンスや看護体験、富山大学の医学部の説明会。2学年は富山県主催のアカデミックインターナーシップ、看護体験、富山大学の医学部の説明会。3学年は富山大学や自治医科大学などの医学部の説明会、節目ごとの進路に関する学年集会。 ②について:1学年は進路講演会やキャリアガイダンス。2学年、3学年は進路講演会や学習支援講座をおこなった。また3学年には保護者を交えた講演会も開催した。 ①と②のアンケート結果を見るとどちらも、各学年の満足度は80%を超えており、今年度に限っては、講師の選定や学習会の内容、キャリアガイダンスの内容がうまく生徒のニーズと合致したのかもしれない。ただ、これでいいというマニュアルは存在しないので、その年ごとに生徒の実情を踏まえて、様々な試みを実施していくなくてはならないと考えている。 ①1年生82.2% 2年生83.6% 3年生80.4% ②1年生91.6% 2年生80.9% 3年生95.7%	令和5年1月末現在、志望校が決定している生徒が27.7%、ほぼ決定している生徒が53.6%であった。
達成度	各種進路行事や講演会を行う目的をはっきりさせた。何のためにこの行事を行うのか、どんな目的で、今回の講師を招いたのかを生徒に理解してもらうよう心がけた。実際に大学で研修することで大学生活で必要な学力、社会で活躍する卒業生の方々に社会人として必要な能力を伝えてしまった。その結果、現在の高校生活において何をして、何を学ばなくてはならないかを生徒自身に考えさせる機会としたつもりである。	年間を通して、学年や担任との定期的な面談指導を実施した。特に、難関大学以上を目指す生徒には、入試問題の添削指導や各種学習会を実施した。学習指導のみならず、部活動の部員間での学び合いなど、生徒が自主的に目的意識を持って取り組むことができる環境作りに努めた。
具体的な取組状況	B	B
評 価	各種行事や進路講演会は概ね評価されていることがわかった。取り組み状況にも記したが、指導部としては、どうしたら生徒が自らの未来を具体的に考えてくれるかを模索しながら実施してきた結果である。次年度にも繋げていくのはもちろんのこと、次は進路行事を通して何に取り組むようになったかまでを調査したいと考えている。	「まなびたきもの集う」のコンセプトのもと、高い学習目標の設定を推奨している。8割以上の生徒がその目標達成に向け努力している。今後は、現在の目標校を「受験校」に、そして、合格できるように自主的で意欲的な学習態度が身につくように支援したい。ただ、2学年は学校になかなかうまく適応できない生徒も散見されるため、面接指導などを通じて進学する意味や大学における学びの楽しさを伝えたい。
学校関係者の意見	外部講師(予備校、キャリアガイダンス等)の講演や授業の際に、教員からも積極的に質問してもらいたい。ちょっとした質問をするだけでも、受講している生徒の活動が活発化する。また、「進路目標の設定」については、1年次より進路について考える機会が多くあり、目標設定や意欲につながっている等の意見があった。面接については、先生方の指導や意見もあると思うが、とりあえず生徒の話を聞くといった姿勢で臨んで欲しい。	
次年度へ向けての課 題	今年度の取り組みは次年度も継続して行いたい。やはり行事を行いう目的を、生徒にはしっかりと理解してもらう必要がある。主催する側としては、もっと目的を詳細に伝えるべきだったかもしれない。現在はキャリア教育の重要性が叫ばれているが、外部講師の方々との意思の疎通も重要なってくる。学校側の思いと外部講師の方々との思いをすり合わせることも必要不可欠である。生徒にとって、5年後、10年後の未来を思い描くことができるような行事や講演会にしなくてはならないと考えている。	10年前の生徒とは明らかに様相が違う。こう言えばきっとわかってくれるだろうということは少なくなったと感じている。生徒には、どうしてこんな話をするのか、理由は○○だからといった丁寧な説明が必要となっている。我々教員の主戦場は授業であるが、その中においても人間関係の構築は不可欠な要素となっている。そのような人間関係を構築した上で、学習指導や進路指導を行うことで、生徒自身が自らの進路を考える機会を創出するよう心がけなければいけないとを考えている。また今年度は、外部から講師を招いて進路講演会や学習支援講座を開催し、進路を考える一助とした。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなつた)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン-4

重点項目	特別活動の充実				
重点課題	学校行事への主体的な取り組みと生徒会規約の見直し				
現 状	<p>学校行事は生徒の主体的活動を促し、実生活における思考力、表現力、判断力の礎となる重要なものである。さらに主体的な学びを促進する重要な機会でもある。本校では生徒と教職員が協力して生徒会や実行委員会で諸行事を運営している。</p> <p>ただし生徒たちの主体的な活動とはいって、実際の活動は基本的に前年度を踏襲する、もしくは前年度のマイナーチェンジというものが現状だった。ところがコロナ禍による行事の中止、縮小が相次ぐ中、生徒たちは想像し工夫しながら行事の開催にたどり着くという、真の意味での主体的な活動になりつつある。</p> <p>だがまたその一方で一部の生徒たちだけで企画運営し、教師や他の生徒に活動の状況が伝わらないという現象も見えてきている。</p> <p>生徒会や実行委員会の活動を見る「見える化」し生徒全員が企画・運営に参加する学校行事にしていきたい。</p> <p>また、9割以上の生徒が部活動に所属していることから部活動に参加することがより良い学校生活や進路選択につながるように支</p>				
達成目標	<p>1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。</p> <p>充実していたと感じる生徒が85%以上。</p> <p>2.生徒会の規約を見直し、全校集会(生徒総会)などが開催できるシステムを構築する。</p>				
方 策	<p>1.年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。</p> <p>2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。 ①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見</p> <p>3.生徒会の規約を時代に沿った内容に、生徒と教員が話し合いながら改正を進める。</p>				
達成度	<p>コロナ禍で行事の中止・縮小が相次ぐ中、生徒たちは良く工夫し、積極的に取り組んでくれた。</p> <p>アンケート調査の結果は以下の通り。</p> <p>体育大会の内容に満足 72.3%</p> <p>体育大会の運営は 生徒中心に感じた 85.6%</p> <p>生徒と教師が協力していた 12.6%</p> <p>文化活動発表会の内容に満足 75.68%</p> <p>文化活動の運営は 生徒中心に感じた 66.0%</p> <p>生徒と教師が協力していた 32.2%</p>				
具体的な取組状況	<p>感染症対策を取りながらの企画立案は、白紙からの状態であったため、実行委員会は良く工夫して行ってくれた。</p>				
評 価	A	B			
	<p>生徒が中心となる行事運営のスタイルは確立してきた。だがやはり一部の生徒で運営され、生徒全員が取り組んでいるというスタイルにはなっていない。</p> <p>3年生が実行委員会を務めるという現在のスタイルに多少手を入れる必要もあるのかと感じている。</p> <p>だが、生徒が生徒を動かすという運営は素晴らしい。</p>				
学校関係者の意見	<p>生徒会と先生方、また生徒会とPTAの話し合いが持てたことは素晴らしいことだと思う。生徒会の「何かを変えたい」といった気持ちを大切にしてあげて欲しい。生徒達はまだ未熟な点も多いと思うが、先生方やPTAの方々との対話を継続していくってもらいたい。また、どのような対話があったかを記録に残すことが重要だということを教えてあげて欲しい。</p>				
次年度へ向けての課題	<p>生徒中心の行事運営において、教員の関わり方が問題になってきている。「生徒中心」と「生徒の勝手」の違いを明確にしなければならない。例えば今年度の体育大会では、「全員が楽しめる体育大会」をコンセプトに企画したようだが、若干FUN(お楽しみ)よりも種目設定になり、多くの教員から「これは体育大会ではない、運動会だ。」との指摘がありました。教員がどのように生徒をコントロールするのか、その手腕が問われていると感じている。</p>				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	科学教育の推進														
重点課題	科学的思考力の習得														
現 状	めまぐるしく変化する現代においては「知識が豊富であること」だけでは対応できなくなっている。「知識」を「知恵」に変えて生きていくためには、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、問題を解決する力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。														
達成目標	①[課題発見力・論理的思考力の育成]					②[意欲的学習態度の育成]									
	※「ポスターセッション自己評価」 上記自己評価を実施し、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の育成・確認を行う。なお、今年度から普通科1年生についても同様の自己評価を行う。					※「意識(興味・関心・意欲)調査」 上記調査を実施し、「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習に興味を持ち、意欲的に取り組んでいるか確認する。なお、今年度から普通科1年生についても同様の調査を行う。									
方 策	1. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。 2. 単元ごとの自己評価に基づき、生徒自らより高い目標を設定し主体的に学習に取り組むことで、高い学力を形成できるよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。 3. 巡査研修を「探究基礎Ⅰ」と、東京方面研修を「探究基礎Ⅱ」と効果的に連携させ、探究活動をより深められるよう実施する。 4. 富山市と連携し、「富山市が抱える課題」について1年普通科「総合的な探究の時間」を活用する。各課題についての調査やポスターセッション等を通して「探究力」や「論理的思考力」を育成する。														
達成度	2年1月「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点をふまえた自己評価結果。つきのような思考力をもって活動できるようになったか。 <段階4:できるようになった、3:少しできるようになった、2:あまりできるようになっていない、1:できるようになっていない。>単位% ①批判的思考力 4 3 2 1 3以上 (昨年度3以上 91.9) ②協働的思考力 50.6 48.1 1.3 0 98.7 (昨年度3以上 91.9) ③創造的思考力 34.2 57.0 8.8 0 91.2 (昨年度3以上 93.2)					1年1月「意識(興味・関心・意欲)調査(3段階評価)」の実施結果 <段階3:よくできるようになった、2:できるようになった、1:変わらないの割合> 「論理的思考力を高める学習に興味を持って、自ら進んで取り組んだ」 3 2 1 2以上 42.9 51.9 5.2 94.8 (R1年度2以上 97.5) 「検証のための調査や実験を興味をもって行った。」単位% 3 2 1 70.1 27.3 2.6 97.4 (昨年度2以上 95.1) 「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」 3 2 1 50.6 48.1 1.3 98.3 (昨年度2以上 93.7)									
	1年普通科 探究的な活動を行なながら、文科省が提示する「地域の諸問題」を「自分事と捉えることができる」ようになるかに焦点を当て、生徒の意識の変化を調査した。富山市役所から提示された問題は、1 移住定住問題、2 公共交通の活性化、3 海洋プラスチックゴミ対策、4 観光政策、5 防災対策である。これら5つの問題をどの程度自分事として捉えているかを、市役所から問題提示の前後、班ごとに課題解決策に取り組み中間発表を行った後と、最終的にポスターセッション後に調査した。問題に関する「心配」と「自分事」双方の度合いが高まった。														
	【探究科学科1年】 4~5月に、「論理的に考えることとはどのようなことか」というコンセプトのもと、教材を用いて学習を重ねた。 6~7月に、人文社会学科は、郷土博物館から講師を招き神通川馳越線工事について講義を受けた。その後富山市内でフィールドワークを行い、高志の国文学館訪問し講義をうける。また富山市の治水と市街地の形成の歴史と現状を学んだ。(巡査研修) 7月に理数科学科は、立山カルデラ博物館の福井研究員から立山・弥陀ヶ原の植生・地形に関して講義を受ける。また後日福井研究員とともに立山室堂・弥陀ヶ原でフィールドワークを行いカールなどの氷河地形や池塘など国立公園内の貴重な環境を学んだ。 9月の文化活動発表会において研究発表を行い、その後は班に分かれ課題研究に取り組み、その成果を12月に科内ポスターセッションで発表した。同時に、2年生主体の三校合同課題研究発表会に参加し、レベルの高い発表を聞くことで経験を積み次年度の参考とした。 1月に「サイエンスアワード」を実施し、大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話を聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。 【探究科学科2年生】 4月より各班の計画に従い、探究活動を行った。富山大学教官による指導助言を受け、課題研究テーマの方向性について調整を図った。 8月の東京研修は中止となったが、代替として本校でオンライン等による先端の講義を受け、見聞を広めた。 9月の文化活動発表会が2年ぶりに開催され発表内容をまとめ発表した。その後さらに検討を加え、12月の三校合同発表会でポスターセッション形式のプレゼンテーションを行った。 3学期は、これまで行った発表を研究集録に残すための作業を行い、2月には科内発表会を開き、互いに質問や意見交換をする中で内容を深め、探究活動を締めくくった。 【普通科1年】 4~中間考査まで:探究活動の基礎として、タブレットを用いて情報処理の基礎(Excel処理など)を学習した。 中間考査以降~6月:「論理的に考えること」の概念や、情報モラル、デジタル作品に関する基礎知識を総合教育センターからの支援も受けながら学んだ。 7月:視野を広い世界に向ける大切さを知る手立てとして、本校OGのJICA職員による「異文化共生」に関する講演を聞いた。 (7月~9月中旬:1学期に学習した内容を活用しながら、クラス毎に文化活動発表会のテーマに沿った内容を調査・研究、発表した。) 8月下旬:富山市が抱える問題について提示していただき、自分の身の回りにも目を向ける大切さを知った。 9月~12月:富山市役所の担当者を招き中間発表会を行った。 1月~2月:富山市の担当者から頂いた助言をもとに、研究の精度を高めている。2/17にポスターセッションで成果を発表した。 【普通科2年】 1年次1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施した。また様々な取り組みを通し、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という手順を含む内容が、定着してきている。														
評 価	2学年探究科学科 A					1学年探究科学科 A									
	今年度は研究期間がR1年以前同様に取れ時間をかけて集中して研究に取り組めた生徒が多く、ポスターセッションによる発表に対し達成感を感じた割合も高かった。しかし、そうでない生徒も若干名おり、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点を意識しながら課題研究に取り組ませる工夫が必要であると考える。														
	1年普通科 B					例年と比較し、探究活動に意欲的に取り組んでいると思われるが、「論理的思考力を高める学習」「仮説をたてての検証」の「段階3:よくできるようになった」の割合がまだ低いので、更なる創意工夫が必要だと考える。									
学校関係者の意見	ポスターセッション等での他者からの意見や指導助言等は詳細に記録しておくことが重要である。生徒には「書き取り」をする力を身につけてもらいたい。昨年「科学的思考力の習得等を普通科にも取り入れてほしい」と要望したが、今年度から普通科で「富山市の課題」に取組んでおり、探究科学科で培ってきたことを普通科でも実践していることは評価できる。														
次年度へ向けての課題	「探究Ⅰ」では、理数科学科は7月に巡査研修を行った。立山室堂・弥陀ヶ原での研修は代替研修ではあったが充実したものとなった。来年度はカミオカンデ等の研修を行う予定である。人文社会学科は6月に高志の国文学館での講義、7月には環水公園を訪れて富山の治水について学んだ。来年度も継続していく予定である。これらの巡査研修を通して理数科学科・人文社会科学科ともに様々な課題に対してのアプローチの方法を学んだ。今後も2年次の課題研究にスムーズに移行できるような計画を検討していきたい。 「探究Ⅱ」では東京研修が中止となり、代替プログラムを実施した。実際に施設を訪問する驚き、発見は少ないことは否めない。次年度はぜひ東京研修を実施したいが、代替プログラムとなった場合でも充実したものになるように準備しておきたい。また、課題研究においては、今年度は文化活動発表会まで例年通りに進めることができた。来年度も立案をしっかりと行い、より効果を得られるような工夫を継続的に行っていきたい。普通科については探究科学科との違いをいかに工夫していきたい。														

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなつた)